（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	いくさか『創造の森』プロジェクト
事業主体 （連絡先）	生坂村 （担当：村づくり推進室　0263-69-3111）
事業区分	産業振興、雇用拡大（イ 農業の振興と農山村づくり）
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,500,000 円（うち支援金：4,252,000 円）

事 業 内 容

ゼロカーボンアクションや脱炭素型ライフスタイルの実践する脱炭素モデル地区を目指す「いくさか『創造の森』プロジェクト」。

今年度は、生坂村の脱炭素先行地域づくり事業の共同提案者である株式会社松本山雅と共同で事業を行い、松本山雅 FC のブランドを冠した『山雅ヤマ部』を発足した。

また、アウトドア体験を中心とした事業を展開することにより、地域コミュニティの形成及び村内外の関係人口の創出を促進したほか、『創造の森』プロジェクトについて説明し、脱炭素モデル地区の重要性ついての理解を深めた。

【山雅ヤマ部】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

●いくさか『創造の森』プロジェクトの概要や脱炭素に対する村の取り組みを、村内に周知することができた。また、株式会社松本山雅の協力により、新聞やＳＮＳなど、メディアへの露出機会が増加し、村外にも広く PR することができた。

●松本山雅 FC のブランドを冠した『山雅ヤマ部』を発足することにより、ブランド力を活かした PR を行うことができ、『山雅ヤマ部』の部員数は 59 名、来村者は 26 名（目標値：部員数 100 名、来村者数 50 名）になった。

【目標・ねらい】

①新たな地域コミュニティの形成
②ゼロカーボンに対する意識の村全体への波及
③『創造の森』における脱炭素型ライフスタイルの理解促進
④関係人口の創出

※自己評価【　C　】

【理由】

・イベントを通じて、雲根地区を中心に地元住民と移住者の新たな地域コミュニティが形成された。
・イベント参加者を通じてゼロカーボンへの意識を村内外に波及することができた。
・イベント参加者（村外）及び部員数が目標人数に届かなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

いくさか『創造の森』プロジェクトでは、令和４年度から地域発元気づくり支援金を活用し地域コミュニティの形成及び関係人口の創出を図ってきた。

村事業としては令和７年度に『創造の森』への農道拡幅含めた整備を予定している。また、令和６年度に形成した地域コミュニティのゼロカーボンアクションや脱炭素型ライフスタイルの理解を深める場としてオフグリッドハウスの建設設計を行い、令和８年度以降建設の予定としている。

本事業で創出した関係人口を呼び込みオフグリッドハウスへの集客につなげるとともに、今後も様々な事業に取り組む予定としている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある